

忘れてはいけない
東日本大震災の記憶

平成23年3月11日午後2時46分、震度6強の激しく強い揺れが大田原市を襲いました。揺れが収まり、外に出ると、周りの景色は一変。市役所本庁舎をはじめ、市内各地で、建物や塀が倒壊し、道路の亀裂や断水など、想像もつかない事態が次々と発生していました。

特に地震発生直後には、電気や携帯電話などのライフラインが突如寸断され、今まで当たり前だと思っていた生活が一瞬にして奪われるということを体験しました。あの激しい揺れとそれに続く余震。この先どうなるのかといった不安感は、決して忘れることができません。

また、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、放射性物質が飛散し、私たちの生活にも影響を及ぼしています。昨年の地震発生後の市内の様子を写真で振り返ります。

災害は突然
起こります



① 地震発生直後の市役所本庁舎前
 ② ガラスが飛び散り、建物内から市民や職員が緊急避難
 ③ 市役所本庁舎内部 棚が倒れ書類が散乱、壁も剥がれ落ちる
 ④ 道路へ石礫が倒壊
 ⑤ 佐久山地区の私道で起こった地割れ
 ⑥ 日本赤十字社大田原病院 停電や建物損壊で屋外へ一時緊急避難
 ⑦ 黒羽城跡公園内の土砂崩れ
 ⑧ 江東区や井原市などから届けられたブルーシートなどの救援物資
 ⑨ 避難所での食事提供(湯津上農村環境改善センター)
 ⑩ 災害ガレキ集積場に運び込まれた大量のガレキ(桧木沢)
 ⑪ 保護者も協力して行われた羽田小学校での表土除去作業
 ⑫ ※写真の被災現場のほとんどは現在までに修繕が完了しています。



日ごろから災害に備えましょう!!

災害に備える非常用品は、緊急避難のときに持って逃げる「非常持出品」と災害後の生活をささえる「非常備蓄品」に分けて備えましょう。

「非常持出品」とは？

緊急避難のときに持って逃げるものをいいます。すぐに取り出せる場所に保管しましょう。

「非常備蓄品」とは？

災害復旧までの数日間を自活するためのものをいいます。最低でも3日分を用意しましょう。

非常備蓄品



□食品

缶詰やレトルト食品、ドライフーズなどそのまま食べられるものや、簡単な調理で食べられるものを準備。チョコレートやあめ、梅干しなども。

□水

飲料水は大人1人当たり、1日3リットルが目安。ペットボトルのほか、ポリ容器に水をためておくも便利。

□燃料

卓上コンロや固形燃料、予備のガスボンベなど。

□その他

毛布、寝袋、洗顔用具、ラップ、食器類、使い捨てカイロ、ロープ、スコップなどの工具、マスク、トイレットペーパー、予備のメガネ、ドライシャンプーなど。

非常持出品



□貴重品

現金、預・貯金通帳、印鑑、健康保険証など。

□救急医薬品

傷薬、ばんそうこう、解熱剤、風邪薬、胃腸薬、目薬など、常備薬があれば忘れずに。

□非常食・水

乾パンや缶詰など、火を通さずに食べられるもの。水はペットボトル入りが便利。乳幼児がいる場合は、粉ミルクも忘れずに。

□携帯ラジオ

小型で軽く、AMとFMの両方が聴けるものがよい。予備の電池は多めに。

□懐中電灯

できれば1人につき用意。予備の電池と電球も忘れずに。最近では、手動発電型もあり。

□その他

ヘルメット(防災ずきん)、上着、下着、タオル、軍手、紙の食器、ライター、缶切り、ビニール袋、ティッシュ、生理用品、紙おむつ、ほ乳びんなど。

※写真撮影日 ①～⑦ 2011年 3月11日
 ⑧ // 3月16日
 ⑨ // 3月18日
 ⑩ // 3月19日
 ⑪ // 3月29日
 ⑫ // 10月23日

防災を考える

震災から1年が経過し、自分たちの日常を取り戻すと、震災の記憶や教訓が薄れがちです。
 災害を止めることはできません。この機会に、いつ起こるか分からない災害による被害を最小限にするため、大切な人の命を守るため、防災についてもう一度考えてみましょう。

東日本大震災 市内の被害状況

○負傷者	2名
○住宅被害	
全壊	6世帯
半壊	116世帯
一部損壊	2387世帯
○避難勧告世帯	7世帯
(平成24年2月10日現在)	

家族で決めよう連絡ルール

- ① 集合場所・一時避難所を確認
(避難経路も合わせて2ルートぐら
い確認)



- ※市内の避難場所については、大田原市ホームページで確認できます。
- ② どこに避難したかを書いておく
・家のどこに貼っておくかも確認
・ガムテープの上に油性フェルトペ
ンで書くとも便利
- ③ 連絡の中継点となる遠方の親戚・
知人を決めておく

そのほか、携帯電話が無くても困らないよう家族や友人、連絡の取り次ぎをしてくれる人の連絡先を書いておきましょう。

災害時の連絡手段

- ▽ 公衆電話
10円や百円硬貨を準備しておく。
- ▽ 携帯電話
通話よりもメールが有効。充電器などを常備しておく。
- ▽ パソコン
メールやツイッターが有効。ネット環境と電源が必要。スマートフ

オンならすぐに使用できる。

災害用伝言ダイヤル・伝言板

- ▽ 使用方法 1771をダイヤル
- ▽ 登録可能番号
被災地域の市外局番から始まる電話番号に限られる
- ▽ 保存時間 48時間
- ▽ 録音時間 30秒
- ▽ 伝言板
各携帯電話会社のメニューの災害用伝言板サービスやパソコンで災害用ブロードバンド伝言板もあるため、自分たちに適した連絡方法を日ごろから考え、確認するようにしましょう。



地域のことは地域で守りましょう

大規模災害が発生した場合、道路の寸断や消防力の分散などにより行政機関による防災活動が著しく低下することがあります。そのよきな時、地域住民による防災活動が被害の防止および軽減に大きな役割を果たします。

自主防災組織

地域住民などで助け合う自主防災組織に参加し、地域とのコミュニケーションを深め、防災について意識を高めましょう。

防災訓練

地域で行われる防災訓練には、積極的に参加しましょう。

《赤堀西自主防災会による防災訓練》



「大田原市安全安心メール」の登録をお願いします！

市民の皆さまが安全で安心な生活を送るための参考として、市では防犯・防災の情報を「大田原市安全安心メール」として配信しています。

● 情報を受信するには？

携帯電話やインターネット接続のパソコンから、

✉ mail@ohatawara-anzen.jp

このメールアドレス宛てに空メールを送れば自動登録されます。
二次元バーコードを携帯電話のバーコードリーダーで読み取れば、さらに簡単に登録可能。

二次元
バーコード



● どんな情報がわかるの？

- 震度4以上の地震情報
- 大雨洪水警報などの気象警報、土砂災害警戒情報
- ダム放流などの河川情報
- 子どもを守るための不審者情報
- 子どもや高齢者などの所在不明事案に伴う協力依頼
- 振り込め詐欺や車上狙いなど犯罪発生情報
- ひき逃げや大規模交通事故などの交通情報
- その他、市から皆さまに知っていただきたい情報
- **お金がかかるの？**
○ 情報提供料は「無料」ですが、空メール送信時や情報受信時のパケット代金がかかります。(1件につき1〜2円程度)

防災の心得 10カ条

- ① わが身と家族の安全を確保しましょう
- ② まわりの状況を確認、落ち着いて行動しましょう
- ③ グラツときたら火の始末
- ④ 戸を開けて出口の確保をしましょう
- ⑤ 外へ逃げるときは頭に注意
- ⑥ 狭い路地、塀ぎわ、がけや川べりに近寄らない
- ⑦ 山崩れ・がけ崩れに注意
- ⑧ 避難は徒歩で、持ち物は最小限に
- ⑨ みんなが協力し合って応急救護をしましょう
- ⑩ 正しい情報を聞いて行動しましょう

問い合わせ

総務課総務防災係

TEL (23) 1111